

東洋文化研究所図書室 (特集 アジア地域関連コレクション -- わが国主要図書館の所蔵資料から)

著者	池本 幸生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	138
ページ	11-13
発行年	2007-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005277

東洋文化研究所図書室

池本幸生

特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

東京大学東洋文化研究所（以下、東文研）は、昭和一六（一九四一）年一月二六日、旧憲法下の勅令第一〇一二号によって東洋諸地域に関する総合的研究を目的として東京帝国大学に創設された。その後、約六五年に渡る図書資料蒐集の結果、平成

一八年三月三一日時点で図書の蔵書数は六四万冊に達する。現在、東洋文化研究所は耐震補強工事のため移転中であり、工事のために六四万冊の図書を避難させつつある。実は今回の一時避難は東文研の歴史において二回目であり、一回目は昭和一九年一月、戦争の激化に伴い、東洋文化研究所は大木文庫を中心とする蔵書五万五〇〇〇冊を福島県耶麻郡上三宮村の願成寺に疎開させている。今回、特に貴重なものについては、奈良国立博物館や印刷博物館などに預かっていただき、その他のものは本郷キャンパス、駒場キャンパス、柏キャンパス等に分散させて避難させる計画である。この作業を通して、これまでも常に言われてきたこと、すなわち「数百年にわたる数多くの人々の努力によって、今日にまで伝えられた貴重書を、未来永劫まで継承してゆく

責任」のみならず、それを多くの人に利用してもらうこと（後述の「アジア古籍電子図書館」参照）の重要性を強く感じると同時に、研究者として歴史的時間の中に正しく位置づけられた研究の必要性を再確認している。

東洋文化研究所は東アジアから北アフリカまでの地域を研究対象とし、東洋文化研究所図書室の所蔵資料もこれらアジア諸地域の政治・経済・歴史・文学・芸術・宗教など様々な分野にわたる。言語も、日本語や欧米諸国語はもちろん、中国語、朝鮮語、アラビア語、タイ語、ペルシヤ語、トルコ語、サンスクリット語、インドネシア語など多様であることを特徴とする。東洋文化研究所の所蔵する六四万冊の図書のうち、日本語、中国語、朝鮮語が四七万冊、洋書（アラビア語、ペルシヤ語、サンスクリットを含む）が一七万冊である。雑誌のタイトル数は六六六三タイトルに達し、そのうち日本語、中国語、朝鮮語が四四二四タイトル、洋書（アラビア語、ペルシヤ語、サンスクリットを含む）が二三三九タイトルである。とりわけ漢籍は、今日では収集困

難な資料も多く、旧東方文化学院蔵書、大木文庫、倉石文庫などを中心に、総計約一〇万点の漢籍が所蔵されている。これらのうちには孤本・善本も数多く含まれ、質量ともに世界で有数の漢籍コレクションの一つである。特に本研究創設時に大木幹一氏より寄贈を受けた中国法制史関係書（大木文庫）をはじめ仁井田文庫、倉石文庫など著名な個人文庫を多数所蔵し、これらは全国的にも有数のコレクションで本図書室の柱をなしている。このほか南アジアや西アジア関係の資料も豊富に備え、なかでも一二世紀から二〇世紀初頭にいたるアラビア語の写本集成で西アジア・イスラームの宗教・思想・歴史の研究には貴重な資料となるダイバー・コレクションやオスマン及び現代トルコ語の雑誌・年鑑類なども我が国では類例の少ない貴重な資料群である。主なコレクション（文庫）は表1の通りである。なお、アジア古籍電子図書館として表2に掲げるデータベースがオンラインで利用可能である。

（いけもと ゆきお／東京大学東洋文化研究所教授）

表1 東洋文化研究所の所蔵するコレクション（文庫）

コレクション名（旧蔵者）	内容
伊藤文庫（伊藤義教京都大学名誉教授）	古代・中世イラン研究関係書 849 冊。
今堀文庫（今堀誠二広島大学名誉教授）	近現代中国の社会史資料。華僑史資料。漢籍 300 点、中国書 2,000 冊、文書資料 500 点。
江上文庫（江上波夫東京大学名誉教授）	本研究所名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書 2,550 点。
大木文庫（大木幹一氏）	大木文庫は、戦前、弁護士として北京で活躍された大木幹一氏（1881-1958 年）が寄贈されたもので、大木氏が長年に渡って蒐集された中国法制関係書を中心とする漢籍 3,168 部、45,452 冊からなり、昭和 18 年から 19 年にかけて北京から運ばれてきた。法律のみならず、政治、外交、経済、産業など研究上の貴重書が多く、特に、清代以降のこれらの分野における貴重な蒐集資料である。いわゆる官箴や公牘の類の数百部は、本文庫のひとつの柱梁をなしている。『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』は昭和 34 年に旧蔵者の稿本にもとづいて編纂された。
オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション	トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類・定期刊行物。
オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報	オランダ植民地省公文書索引はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850-1921 年）の手書きの索引書数百巻分を網羅したものであり、ジャワ官報はインドネシアにおけるオランダ植民地政府が 1928 年から 1939 年に公布した官報の集成である。
清野文庫（清野謙次氏）	昭和 27・28 年度に清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする貴重なコレクションであり、昭和 53 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。
倉石文庫（倉石武四郎東京大学名誉教授）	昭和 50 年度に本学名誉教授倉石武四郎の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、昭和 56 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点及び和書 3,300 冊、現代中国書 2,300 冊を購入した。
乾隆版大蔵経	平成 2 年度に乾隆版大蔵経全 724 函（毎函 10 冊）、大清三蔵聖教目録 1 函（5 冊）を購入した。中国・北京、文物出版社、1989 年刊。乾隆版大蔵経は雍正 11（1733）年に開刻し、乾隆 3（1738）年に完成した中国最後の木版大蔵経である。経、律、論の三蔵と雑蔵の 4 分よりなり、1657 年の仏教典籍が収録されている。明の北蔵の系統をひき、今日、漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみであり、きわめて貴重な資料である。
下中文庫（下中弥三郎氏）	下中弥三郎氏より昭和 28 年 1 月から 32 年 6 月にかけて戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊を受贈した。特に中国書は当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅し、戦後の中国研究に関する重要な資料である。
清朝建築図様（東方文化学院東京研究所）	清朝末期の様式雷による営造関係図様。「東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係資料目録」を 2004 年に刊行した。
夕嵐草堂文庫（前野直彬東京大学名誉教授）	小説および戯曲漢籍約 500 点 4,400 冊。
雙紅堂文庫（長澤規矩也氏）	昭和 25 年に長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は、明清時代の戯曲小説類で、貴重書も少なくはなく、中国文学研究上、重要な資料である。昭和 36 年 11 月、本研究所創立 20 年に当り、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。
タイ語文献コレクション（友杉孝東京大学名誉教授）	本研究所名誉教授友杉孝氏旧蔵のタイを中心とした東南アジアの歴史・地理等に関する資料 2,192 点をベースとして収集中。
中国西北文献叢書	中国西北地方の歴史・地理・民俗・文学等に関する基本文献。
中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料	中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部。
帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書（帝国学士院東亜諸民族調査室）	昭和 19 年、帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。
東京銀行調査部旧蔵資料（東京銀行調査部）	昭和 34・35 年度に東京銀行調査部所蔵の経済関係書を中心とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。
東方文化学院旧蔵書（東方文化学院東京研究所）	東方文化学院東京研究所は、昭和 4 年に東方文化に関する研究機関として創設され、外務省の所管に属したが、昭和 23 年に廃された。昭和 42 年 3 月、その旧蔵書と漢洋あわせて 103,587 冊が本研究所に移管された。
仁井田文庫（仁井田陸東京大学名誉教授）	本研究所名誉教授仁井田陸氏の逝去（昭和 41 年 6 月 22 日）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。これらの図書資料は、大木文庫とともに旧中国の社会研究に極めて重要なものである。
西アジア関連写本集成	ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所およびユダヤ国立大学所蔵のアラビア語写本のマイクロフィルム。



特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

東アジア宗族社会史関係資料	朝鮮族譜集成 494 冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料 2,263 冊。
文淵閣本四庫全書影印本	昭和 63 年度に文淵閣本四庫全書影印本全 1,501 冊を購入した。四庫全書は清代以前の中国の古典的文献を網羅した最も基本的な叢書であり、現在、台北故宮博物院の所蔵するところとなっている文淵閣原本は、北京紫禁城内に置かれていた正本をなす。中国研究上、不可欠の重要性を持つ。
松本忠雄氏旧蔵書	昭和 25 年に松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。近代中国研究資料として重要なものを含んでいる。
南アジア伝道教団資料集成	南アジア各地で伝道活動を行ったキリスト教団の 18 世紀末から 20 世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等。
矢吹慶輝氏旧蔵書 (矢吹慶輝氏)	昭和 27 年に矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英・仏・独のマニ教関係の文献がその中心をなし、他に仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。
我妻文庫 (我妻栄東京大学名誉教授)	本学名誉教授我妻栄氏の逝去 (昭和 48 年 10 月) 後、所蔵の和洋法文学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所在とくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。その目録は『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』として刊行した。
The Daiber Collection I, II (ハンス・ダイバー氏)	本コレクションはドイツのイスラーム研究者、ハンス・ダイバー (Hans Daiber) 氏が長年にわたって収集したアラビア語を中心としたイスラーム関係の写本の集成である。Collection I はイスラームの宗教、思想、歴史の写本 367 点からなり、Collection II は 12 世紀から 20 世紀初頭のアラビア語写本 120 点からなる。主としてアラビア語によって書かれたもので、イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。本コレクションは、イスラームの多様な学問分野の文献を広く覆っており、全体として見るならば伝統的なイスラームの学問の鳥瞰図を描き出している。昭和 63 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection を刊行した。現在、電子図書館の一翼として公開されている部分は、大小さまざまな文献 500 点近くを含む 153 冊の写本 (石版印刷本 1 点を含む) である。具体的には、クルアーン諸学 (注釈、朗唱法を含む)、預言者ムハンマドの伝承 (ハディース)、法学 (基礎論および実定法、またシーア派法もふくむ)、倫理道徳論、教訓的著作、神学 (教義・終末論をふくむ)、神秘主義 (スーフイズム)、哲学 (形而上学・自然学・論理学をふくむ)、弁論術、文法学、辞書学、韻律学、修辭学、詩、物語、地理学、伝記・歴史、医術、代数・幾何、天文学・占星術、夢解き、錬金術など様々である。個々の写本はムスリム世界の各地から集められたものであるが、その大部分はトルコ、シリアで書写されたもので、そのほかイエメン、モロッコ、イラン、アゼルバイジャン、アフガニスタンで筆録されたと考えられるものがある。書写年代については、古くは西暦 12 世紀の末から、新しいもので 20 世紀初頭に写されたものまでを含み、18 世紀に成立したものが最も多い。
Indonesian Monographs, 1945-1973	オランダ王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した独立後インドネシアの社会科学関係出版物 3,258 点。
Ouseley Collection (G. Ouseley 卿)	17 世紀から 19 世紀のヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記、ペルシャ文学作品。60 点、全 106 冊。

表 2 アジア古籍電子図書館 (<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>)

収録データベース名	収録点数	原資料所蔵	備考
アラビア語写本 ダイバーコレクション	153	東洋文化研究所	I : 18 年度中公開予定 II : 公開中
サンスクリット語写本 データベース	518	総合図書館	製作 : 東洋文化研究所 南アジア部門
漢籍善本全文画像資料 庫	566	東洋文化研究所	
明代画像資料 三才圖會 データベース		東洋文化研究所	
雙紅堂文庫 (小説)	172	東洋文化研究所	18 年度中公開予定